

中央大学リーガル・キャリア・サポート委員会主催
業務・採用等説明会（2014年5月22日開催）

法曹界の現状と若手弁護士の実情 ～若手弁護士がいかにチャンスを得ているか～

中央大学法科大学院では、リーガル・キャリア・サポート委員会を組織し、在学生・修了生のみなさんに対して進路決定・就職に関するサポートを行っています。

今回は、司法試験が終了し就職活動が始まったこの時期に、「法曹界の現状と若手弁護士の実情」というタイトルで、中央大学法学部OBの西浦善彦弁護士（佐藤・西浦法律事務所、中央大学法曹会事務局次長、第62期）にお話を伺いました。



はじめに法曹界について、資料を基に現状の説明がありました。弁護士数について、経年の推移・都道府県別・修習期別などを示し、最近の急激な増加や都市と地方の格差などを再確認しました。

続いて、若手弁護士の実情に話は移り、マスコミ等で盛んに展開されるネガティブキャンペーンにも似た“弁護士という職業が苦境に立っている”などという報道が、いかに不正確な情報かを説明していただきました。

次に、弁護士としての活動について①大手法律事務所、②中小法律事務所、③企業内弁護士、④任期付公務員、⑤地方の法律事務所、⑥法テラス、⑦軒弁・即独・早期パートナーごとにその特徴や業務内容等について、先輩法曹の実例を挙げて説明があり、参加者は具体的で臨場感のあるお話に聴き入っていました。



西浦弁護士から参加者へのメッセージは、まず、自分がどのような弁護士になりたいか、弁護士になって何がしたいか目標を持ってほしいこと、また、常にどの目標に向かうにしても、前向きでアグレッシブに行動すれば必ず道は拓けること、でした。熱い西浦先輩のお話に、参加者みんな力強い勇気をいただきました。

リーガル・キャリア・サポート委員会では、今後も講演会等のイベントを実施していきます。在学生また修了生のみなさん、積極的にご参加ください。